日本列島情報ネット

西日本版

広島支局 〒730-0042 広島市中区国泰寺町1－5－33 電話・082(241)3592 FAX・082(241)3597

福岡支局 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3－28－12 電話・092(451)3321 FAX・092(451)3387

是永商会

最新鋭加工設備2基

大東精機と共同開発

鉄鋼特約店で初めて

北九州市の鉄鋼特約店、是永商会（社長・是永美恵氏）はこのほど、鋼材加工機の専門メーカー、大東精機（本社・兵庫県）と共同開発して導入した、ロボットプラズマ加工機「CRⅡ1040」と、ドリル複合加工機「DB3CM5030」の本稼働を開始した。地方の鉄鋼特約店が専門メーカーと組んで、加工機を開発したのは初めて。是永直宏専務は「ニュースタンダードの時代なので、オリジナルにこだわって、加工分野で存在感を示したい」と話している。

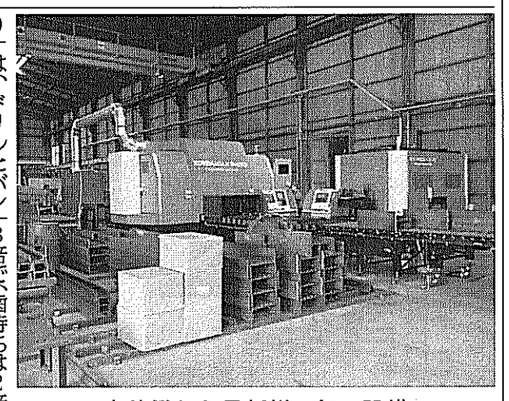
是永専務「加工で存在感示す」

ロボットプラズマ加工機「CRⅡ1040」は、安川電機製の最新ロボットにプラズマを組み合わせて、自由に形状加工する設備。オービタルフライングシステムを採用しており、高精度の高速切断が可能。1000㍉×4000㍉、最大50㍉まで可能で、搬入・排出も全自動で行う。

ドリル複合加工機「DB3CM5030」は、ドリルとバンドソーを組み合わせたタイプ。ミスト方式でドライ加工。タッピング（ねじ穴）や、ミーリング（削り）は全自動。ドリルには、オイルホールドリルを採用。切断スピードは従来の3倍で、歯持ちは2倍。全てのドリルに、ATCが付いている。

両設備の導入に併せて、パナソニック製の自動溶接ロボット「TA－1600」も設置した。電極センサーを用いて、三次元形状の溶接が可能。また、会議室および応接室もリニューアルした。今回の投資額は1億3千万円。年内にはホームページを立ち上げる予定で、来年は3人を増員する方針。

同社は、是永行生前社長の急逝に伴い、是永専務が同社に就職した約10年前から、形鋼の販売を手掛ける一方で、加工分野に特化。現在の加工比率は98％に達する。形鋼の切断、穴あけ機をはじめ、ヤマザキマザック製の三次元レーザー加工機など13台の最新設備を保有している。従業員12人で、年商約3億円。小粒ながらも無借金の堅実経営には定評がある。


本稼働した最新鋭の加工設備

新「中国建翔会」が発足総会

新日鉄住金 中島新日鉄住金中国支店長「絆と底力示す」

新日鉄住金の中国地区建材取引先などで構成する「中国建翔会」は6日、広島市内ホテルで発足総会を開催した。会長に杉原申太郎・豊正工業社長を選任。会員企業82社でスタートした。総会・懇親会に約200人が出席した。

名誉会員の中島克英・新日鉄住金中国支店長＝写真＝は、厳しい土木・建材の状況が続く中、中国地域の臨海コンビナートの防災・減災対策や鉄鋼スラグを使ったメガソーラー地盤整備と架台の一括提案など、鉄需創出への方向性を示した。また、同支店建材室の雰囲気を「10年来一緒に仕事してきたよう」と評し、「より良い会社・支店にしていくとの軸に向かい、強い求心力が働いている。建翔会をパワーアップし、絆と底力を示すため、従前以上の連携をお願いする」と会員の結束を求めた。

懇親会冒頭では、新日鉄住金本社から来賓の樋渡健治・常務執行役員建材事業部長が登壇。「新会社の研究に携わる人間は800人で、特許数はアルセロール・ミッタルの10倍、JFEスチールの3倍。この技術を融合し、何か新しいことを出来るのが新会社の一つの売りであり、新工法や新商品で、皆さんのお役に立ちたい。また、高いマーケットポジションを与えられた以上、業として長く続くよう市況形成に尽力していきたい」と語った。

総会後は市川善彦・日本ガードサービス社長が記念講演し、マイナスの出発から警備会社を立ち上げ、無借金経営を確立したユニークな手法などをテンポ良く語った。

《まつり起業祭八幡》に65万人

秋晴れに恵まれにぎわった大谷球場周辺

▽…北九州市八幡東区の大谷球場周辺で2～4の3日間にわたって開催された「まつり起業祭八幡2012」は、晴天に恵まれたことから期間中65万人が訪れ、予想以上ににぎわった。新日鉄住金八幡製鉄所に名称が変わって初めての工場見学会には約2300人が参加。長方形の真っ赤な鉄を、薄い板に延ばす迫力満点の熱延工場を見学。ものづくりの現場を堪能した。

▽…官営八幡製鉄所の作業開始式から始まった起業祭は、今年で112年目。八幡製鉄所の冠が外れて、市民の祭りとなってからは27回目。近年は、地域密着型のイベントを増やしており、市民参加型の秋祭りとして定着してきている。

▽…今回は、アイドルコンテストで全国1位になった、九州発の部活系アイドルユニット（キュンキュン）などが歌を披露したほか、起業祭おどりコンテスト、写真コンテストや国際平和ポスター展、ミス起業祭選彰式、相撲の弐秀部屋の公開練習やちびっこ相撲教室など、盛り沢山のイベントを楽しんだ。

▽…東田大通り公園を舞台に、「25時間」で何周するかを競う「ウルトラ25時間駅伝大会」は年々人気が高まっており、8回目となった今大会には、過去最高の73チーム6千人がエントリーした。初参加の新日鉄住金エンジニアリングチームでは、若手社員に交じって高橋誠社長と沢雅朋副社長も疾走。ヤンヤの喝采を浴びた。

新日鉄住金八幡 工場見学に2300人

ウルトラ25時間駅伝 過去最高の6000人参加

過去最高の参加者で競った駅伝大会

ウェアパーツサプライヤー

SSAB社から認定

営業支援受け拡販へ

共和工業所

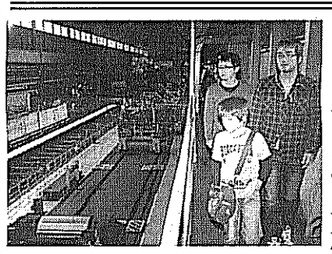
鋼材加工、産業機械製作の共和工業所（本社・岡山県倉敷市、社長・石本隆一氏）はスウェーデンスチール（以下、SSAB社）が耐摩耗鋼板「HARDOX（ハルドックス）」の加工工場として国際的に展開している「ウェアパーツサプライヤー」の認定を取得。7日に倉敷市内ホテルで認定授与式＝写真＝を行い、今後の拡販に弾みを付けた。

日本国内でウェアパーツサプライヤーの称号を得たのは2社目。世界的に評価されているハルドックスを扱う企業ブランドイメージの向上や材料の価格・供給面が優先されるメリットを得ることができるという。同社は2009年12月からSSAB社の製品の加工販売を開始。溶断、曲げ、切削などの一次加工を手掛けて需要開拓を進め、年間扱い量100トン超までに増やしている。

石本社長は「特殊な鋼板を加工し、お客さんに喜んでもらうことが最大のテーマ。認定取得で営業的な支援を得られる半面、義務と責任が生じ、顧客からの要求も高まる。今まで以上に勉強・研修と加工技術の蓄積を行わねばならない」と、式典に社員半数を前に決意を表した。

当日はSSABアジア圏営業責任者のグスタフ・ワムストローム氏が来日しており、「地域に根差した商品展開で、特殊鋼の大きな鉄板をエンドユーザーに求める形に加工して納めることをビジネスの軸にすること」などビジネスモデルを紹介した。

JFE倉敷フェスに16万人



秋の行楽シーズン到来。3日の文化の日、中国地区では製鉄所祭りと鉄鋼関係者によるスポーツ親睦会が開かれた。

JFEスチール西日本製鉄所（倉敷地区構内で「JFE西日本フェスタ in くらしき」を開催、家族連れら約16万人が来場した。

メーンステージで岡弘所長による開会宣言とともに、地元の倉敷天領太鼓の演奏がスタート。高炉や熱延、厚板工場をめぐる見学会＝写真＝には、今年も順番を待つ長蛇の列ができた。飲食模擬店やバザーで場内は終日にぎわい、催しの数々も人目を引き、ステージ上では歌手やお笑い芸人らが会場を湧かせた。

広島市内の広銀の森運動場では、広島鉄鋼特約店組合（理事長・永吉伸光太陽工業社長）がソフトボール大会を開催。第23回目を数える大会に、組合加盟企業から連合チームを含め8チームが出場。メタルワン建材西日本が13対9で連合チームBを下し、3年連続優勝を果たした。

ソフト大会 メタルワン建材西が3連覇

JFEスチール

中国鋼管会総会に30人

八杉会長「ステージ変わってきた」

JFEスチール中国鋼管会は2日、広島市内のリーガロイヤルホテルで総会を開催。約30人が出席した。

冒頭、八杉陽一郎会長（八杉商店社長）＝写真＝が「新入社員と話していると、物心が付いた時からJFEスチールがあるため、成り立ちを知らないことに驚き、鉄鋼業のステージが変わってきたと実感。先月に新日鉄住金が誕生し、来年の新入社員はそれが当たり前になるわけで、今後どのように変わっていくかが楽しみだ」と話した。

JFEスチールを代表しては、石川逸弥常務執行役員が登壇した。「人数は新会社がJFEスチールの立ち位置を見直すまたとない機会。お客さんの忌憚のない意見を正面から受け止め、その課題を営業・技術がスピード感を持って取り組むことが、一つの生きる道だ」などと語った。

総会終了後には、現代美術作家の柳幸典氏が尾道市・百島で行う企画展「UTOPIA」（11月24日まで）の内容を中心に講演した。

日新・周南のブース

周南で大型展示会開催

山口県などが主催する大型展示会「やまぐち総合ビジネスメッセ」が先月26日、周南市のキリンビバレッジ周南総合スポーツセンターで開催された。山口県内に事業拠点を置く企業を中心に200社以上が一堂に会した。ステンレスの一大産地である山口県に相応しく、ステンレス鋼を使った加工製品が数多く出展された。

日新製鋼周南製鋼所は一般来場者にも分かりやすいよう、グラスなど身近なステンレス製品を展示し、製造工程をまとめた映像を流したりして、ステンレスをPRした。

共英製鋼山口事業所は電気炉製品の一部や、スラブなどに取り付けるステンレス製階段用滑り止め具「ステップアップ」を展示。ステンレス鋼に孔を開け、滑り止め機能を付加したもの。機械用油で内部のむき出しとなったH形鋼に労働災害防止を目的に施工する想定した商品だったが、近年は学校施設内部の耐震補強でH形鋼を設置した際に子供達が接触しても危険がないように採用されるパターンが多いという。

王子ゴム化成はリサイクル可能な軟質素材製の「H鋼セーフティガード」を展示。従来、工場などの通路や滑りやすい環境にある工場などを中心に拡販を目指している。

制御盤・配電盤メーカーの新興製作所のブースでは、鋼材の端材を使った「鉄折紙」（てつおりがみ）が目を引いた。産学公連携による商品開発チームを作り、商品化。平面の金属板（板厚0・6～1・0㍉程度）で作られ、手で簡単に曲げる事が出来る。

ステンレス製階段用滑り止め具①と鉄製の折り紙

ステンレス加工品など出展

九州ステンレス協会

第81回経営実態アンケート調査集計表

（単位：%）

	第81回（H24/7～9）回収率（54.2%）	第80回（H24/4～6）回収率（58.3%）
問1 7～9月の売上高（前期に比べて）		
①増加	25.0	0.0
②横ばい	16.7	21.4
③減少	58.3	78.6
問2 収益・採算		
(イ)7～9月は		
①黒字	16.7	0.0
②収支トントン	33.3	35.7
③赤字	50.0	64.3
(ロ)前期と比べて		
①良化	16.7	7.1
②横ばい	16.7	14.3
③悪化	66.7	78.6
問3 在庫量（対在庫販売売上高）		
(イ)9月末在庫量		
①1.0カ月以下	18.2	8.3
②1.1～1.5カ月	9.1	16.7
③1.6～2.0カ月	9.1	16.7
④2.1～2.5カ月	36.4	15.4
⑤2.6～3.0カ月	9.1	25.0
⑥3.1～3.5カ月	0.0	8.3
⑦3.6カ月以上	18.2	8.3
(ロ)月末の在庫量は		
①多い	36.4	30.8
②適量	54.5	69.2
③少ない	9.1	0.0
問4 これから3カ月の見通し		
(イ)ステンレス業界の景気		
①良化	8.3	14.3
②横ばい	50.0	35.7
③悪化	41.7	50.0
(ロ)業績（売上高・収益）		
①良化	25.0	21.4
②横ばい	41.7	50.0
③悪化	33.3	28.6

九ス連

7～9月経営アンケート

売上高・収益が若干改善

九州ステンレス流通協会がまとめた「第81回経営実態アンケート調査」（7～9月）によると、売上高が「増加した」企業は、前回のゼロから25・0％。収益が「黒字」の企業も、前回のゼロから16・7％に改善。低水準ながらも、売上高・収益ともに好転した。

「赤字」企業は、前回の64・3％から50・0％に減り、「収支トントン」企業は前回と同じ33・3％。前期と比べて「良化」した企業は、16・7％にとどまっている。

9月末の在庫量は「2・1～2・5カ月」が、36・4％を占めて首位。特徴的なのは、「1・0カ月以下」と「3・6カ月以上」が、それぞれ18・2％を占めていること。企業によって、在庫スタンスが大きく異なる。在庫量は「適量」が、54・5％を占めており、過剰感はない。

これから3カ月の景気見通しについては「横ばい」を予想する向きが50・0％、「悪化」とみる向きも41・7％を占めており、厳しい認識だ。

業績については、「良化」が21・4％から25・0％に増えているのに対し、「悪化」も28・6％から33・3％に増加しており、見方が分かれる。

木曽精機

航空機向け部材加工能力

来年は月産10機対応へ

キソメック子会社の木曽精機（社長・木曽一成氏）は、航空機向け部材加工能力を現状の月産5機分から、将来的に10機へと拡大するキソメックの加工部門を分離・独立し設立。アルミ、ステンレスを素材にIT半導体関連、医療機器などの部材加工を中心に受注量が増加。2006年にはアルミ製の航空機部品加工に進出。次世代航空機ボーイング787型機の主翼部梁材や三菱重工業の小型航空機向けなどの加工を受注し、中核事業のひとつに成長している。

航空機部品加工向けの横型マシニングセンター2基を所有し、現在、B787向けで月産5機分の部材を加工している。能力的には月産7・5機分まで対応可能な設備投資が完了しており、増産を見通しが立った段階で、今後の投資を行う予定。

新日鉄住金・八幡

地域社会貢献賞 授賞式を開催

新日鉄住金八幡製鉄所（所長・谷本進治執行役員）は4日、北九州市八幡西区の大谷会館において「第22回地域社会貢献賞」の授賞式を行った＝写真。今回の受賞者は、新日本製鉄八幡製鉄所（現・新日鉄住金八幡製鉄所）のOBで、8月にオープンした『北九州市漫画ミュージアム』初代館長の田中時彦さん（60歳）。

この賞は、スポーツ・文化・その他の諸活動を通じて社会に貢献している個人・団体を表彰する制度で、1991年に創設されている。田中さんの講師としての講演や童画を通じて、地域社会に貢献している。

約80人が参加した授賞式で、谷本所長は「我々のOBである田中さんが、漫画を通じて、地域活動をしてこられたことは誇らしい。今後も活躍してほしい」と挨拶。受賞した田中さんは「とても嬉しいです。絵を描くことは私のライフワーク。今後は、路地裏の情景なども描いていきたい」と語った。

田中さん（新日鉄八幡OB）が受賞

田中さんは、1971年に新日本製鉄八幡製鉄所に入社。鉄鋼労連会に貢献。約80人が参加した授賞式で、谷本所長は「我々のOBである田中さんが、漫画を通じて、地域活動をしてこられたことは誇らしい。今後も活躍してほしい」と挨拶。受賞した田中さんは「とても嬉しいです。絵を描くことは私のライフワーク。今後は、路地裏の情景などを描いていきたい」と語った。